

平成23年度 事業報告書

ハーバー大慈

1. 《法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

- ①児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき利用者の人権を尊重する。
- ②利用者に対し、適切な自立への支援を行う。

＜入居者の異動利用状況＞

月別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍数		20	20	19	19	18	20	20	20	20	20	20	20	236
		46	46	44	44	42	46	46	46	46	46	46	46	544
入所	夫の酒乱 暴行					2								2
					4									4
	住宅 喪失													
	その他													
退所	公営住宅 入居													
	民間住宅 入居		1		1									2
			2		2									4
	復縁 再婚													
その他														
短期保護	母子		1	1		1								3
			2	2		2								6
	婦人								1	1				2

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

※母子婦人短期保護の母子家庭は、3世帯6名 婦人は1名 延人員116名だった。

3. 《目標》

①利用者が安心して生活できる環境作り、サービスを提供する。

→ ・病児保育、夜間保育、児童の病院の付き添い、知的障害の母親に対しての食事の支援等、昨年度と同様に今年度も個別に応じたサービスを提供してきたが、母親の資格取得時の児童の預かりや、知的障害の親子に対して体重増加を防ぐ為、ダイエットメニュー（食事・運動）を取り

入れたり等、今までと違った、幅広いサービスの提供を行う事が出来た。しかし、いきすぎたサービスの提供により、自立の妨げや利用者の意志に沿っていないサービスの提供を行わないように心がけ、利用者の意志を尊重して行うよう、今後とも気をつけていきたい。

- ・玄関の門扉の鍵が施錠されていないこと等があり、安全面の配慮が足りていなかった。原因として、自動開閉錠等の機械の不具合もあるが、職員全体の危機管理に対する意識が薄かったと思われる。安心して生活できる環境を提供する為にも、主任・リーダーが先頭に立ち、会議等を通し、職員の意識改革を行っていきたい。

②研修等を実施し、職員の資質向上を図り、リスクマネジメントに基づきリスクの軽減を図る。

- ・今年度はヒヤリハットとは別に“ケガノート”を用い、小さなケガでも1つのケガと認識し、リスクの軽減を図った。その結果、どういう場面でケガが起きやすいのか等、データとして把握する事ができた。来年度のリスクの軽減に向けて活用していきたい。
- ・今年度は多くの研修に職員が参加できた。研修で学んだ事を会議で発表してもらい、必要だと感じた事は積極的に取り入れ、実践した。今以上に研修の成果を上げる為に、来年度は各職員の年間の研修計画表を作成し、研修に取り組みたい。

4. 《支援》

①入所時・入所後にケースワークを通して母子と相談した上で、自立に向けた目標やプランを設定する。

- ・ケースワークを通し、各入所者の意見や思いを聴き、個別に応じた支援や目標を設定し、実施した。また、退所時期が近付いた世帯や必要なケースに関してはケースワークの回数を必要に応じて増やし、支援する様、努めた。

②支援会議で話し合い、支援の方法を考える。

- ・毎月の支援会議で、問題のあるケースを挙げ、職員全員で自立に繋がる様、支援方法を考え、実施した。(親子関係が上手くいっていない世帯への職員の介入、知的障害の母子に対して健康面での支援等)
- ・ケースワークを通し、子どもの修学費用や自立に向けて、資金を貯蓄する様伝えた。

③児童のよりよい養育の為の支援を行う。

a：小・中学生の学力向上

- ・小学生・・・今年度より小学4～6年生に対して英語の授業が加わった為、月1回の英語の学習指導を取り入れ、アルファベット等の練習をした。
- ・中学生・・・3年生には受験対策として、より質の高い学習指導を受けてもらう為に、ボランティアを依頼し、教えに来てもらった。また、3年生の児童には、勉強する場所の提供を行い、必要に応じて学習指導を行った。

b：母親への経済的自立に向けての支援（就労支援等）

- ・残業時の預かりや病児保育（伝染病、高熱以外）等、可能な限り仕事が優先できる環境を整えた。

5. 《リフレッシュ保育》

①23年度年間延べ1,675人（昨年度年間延べ1,705人）

- 前年度より30人利用人数が減った。しかし、日祝日の利用人数は前年度に比べると増えている。平日の利用者の獲得に向けて、リフレ委員会・リフレ委員長を筆頭に、宣伝方法等話し合っていきたい。また、紹介による利用者が増えているため、今後も利用者に満足してもらえ様な保育を行いたい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H23	137	123	98	124	150	132	140	116	164	164	156	171
前年比	-4	-15	-43	-24	-40	+15	+20	+3	+11	+38	+30	-21

6. <<健康診断>>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年1回	年1回
検便（O-157）	月1回	—	—

7. <<保健衛生>>

- ・害虫駆除を行った。（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室）
- ・排水管の清掃を行った。（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室）

8. <<広 報>>

- ・毎月、施設新聞を利用者、関係機関に配布した。

9. <<会 議>>

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	主任・リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設、子ども福祉係・保護係等の各担当者）		

①職員会議（月1回開催）

主に行事の反省や今後の予定について話し合っているが、意見を出す人が限られている。改善策として、一人ひとりが発言できるように司会者が意見を聴く等しているが、参加者自身が積極的に発言が出来る様、改善策を考え、会議の質を向上できるようにしていきたい。

②支援会議（月1回開催）

主に入所者の支援について、職員間で意見を出し合い、話し合っている。今後も気になるケースについては、随時、議題として上げ、支援方法について話し合っていきたい。

③リスクマネジメント会議（月1回開催）

1ヶ月分のヒヤリハット、事故報告書・相談記録・苦情報告書を議題に上げ、改善策等を話し合っているが、ヒヤリハットでは同じ様な内容（職員のミスによる）が上がってくる事もあるので、会議を通し、今以上にリスクマネジメントに対する意識を持ってもらう様努めていきたい。

④主任・リーダー会議（月1回開催）

今後の予定や人事等、施設としての方向性を施設長、主任、リーダーで協議した。

⑤リフレ委員会（月1回開催）

リフレ委員長を主とし、リフレッシュ保育に関する事を協議している。今後も利用者の増加対策等、活気的な意見が出る場にしていきたい。

⑥三者連絡会議（年2回以上開催）

施設と役所（福祉）の方で入所者の現況報告を行っている。今後も各機関が協力し、支援に携わっていける様、内容のある会議を進めていきたい。

10. <<行事内容>>

月極	母の会・避難訓練
----	----------

○年間行事

月	日	行事	月	日	行事	
4	7	昼食会	9	1	昼食会	
	12	昼食会		4	母子生活支援施設協議会 バス旅行（姫路セントラルパーク） →台風の為、中止	
	23	個別対応遊び（ホットケーキ作り）		10	昼食会 個別対応遊び（Tシャツ作り）	
5	8	母子生活支援施設協議会 運動会・湊小学校		17	焼肉パーティー	
	14	昼食会		19	プロレス招待	
	15	桧山シート招待		10	8	昼食会
28	個別対応遊び（プラバン作り）	29	個別対応遊び（せっけん作り）			
6	3	害虫駆除	11	19	昼食会	
	5	親子でエンジョイ （金毘羅山、うどん作り）		20	個別対応遊び（キーホルダー作り）	
	11	個別対応遊び（餃子の皮ピザ）		26	大慈園秋祭り	
	18	昼食会		27	アイススケート招待	
7	7	七夕（鮭寿司・豚汁）	12	28	バスツアー招待（ヨーデルの森）	
	20	昼食会		3	施設内忘年会	
	23	個別対応遊び（水風船遊び）		10	昼食会	
	25	昼食会		11	小中高生エンジョイ（USJ）	
	29	昼食会	17	施設内クリスマス会		
	30	ミュージカル招待	28	個別対応遊び（初笑いのTシャツ作り）		
	8	3	3	2	8	母子生活支援施設協議会 母子母と子の集い
6			花火大会招待		14	個別対応遊び（白玉団子作り）
9			昼食会		21	昼食会
17			昼食会		28	新年会
18			個別対応遊び（水遊び）		3	節分（巻き寿司・豚汁） 個別対応遊び（巻き寿司作り）
21~23		料理教室招待	3	1	ひな祭り（鮭寿司・豚汁）	
		母子生活支援施設協議会 児童キャンプ（ハチ高原）		2~3	母子生活支援施設協議会 児童スキー（ハチ高原）	
		24		地蔵盆	9~11	高校生エンジョイ （東京ディズニーシー）
		26		昼食会	23	昼食会
		29		昼食会	24	個別対応遊び（写真立て作り）
			29	昼食会		

→①個別対応遊び（月1回）

個別に対応が必要な児童に対して、遊びを通しコミュニケーションを密にとれるように、時間・場所を作り、関わりあうようにした。ただ、強制的な参加にならないよう、参加は自由参加とした。来年度も引き続き、子どもたち自身が参加したい、と思える遊びを考えていきたい。そうして、一人ひとりのコミュニケーション能力が向上し、抱えている不安を取り除けるようにしていきたい。

→②6月親子エンジョイ（日帰りバス旅行・金毘羅山、うどん作り）

日帰りでの金毘羅山登り、うどん作りツアーを企画した。金毘羅山、うどん作りとも入所者に喜んでもらえることができたが、帰りのパーキングエリアでの休憩について、運転手との確認ができておらず、休憩をとることができなかった。入所者の中には、帰りのパーキングエリアでお土産を買う予定の方もいた為、職員がもっと配慮するべきだった。

→③2月OB会（天安閣、お食事会&カラオケ）

毎年OBの方の近況報告や情報交換を食事会を通して行うことができ、退所後のアフターケアとして喜ばれている。ただ、参加者の年齢が高齢化しており、2月開催は体調面に負担をかけているのではないかと、という意見があった為、来年度より10月に開催してみることにし、今後も入所中だけでなく、退所後の交流の場として続けていきたい。

→④3月高校生エンジョイ（夜行バス・東京ディズニーシー）

今年度初の試みとなった。行事自体は参加児童に喜んでもらえる事が出来たが、寒い時期だった為、もう少し暖かい時期でも良かったのではないかとと思うが、受験生や就職活動等があり、この時期の催しとなった。今後も高校生向けの行事として、3年に1度のペースで行っていききたい。

11. 《学習指導》

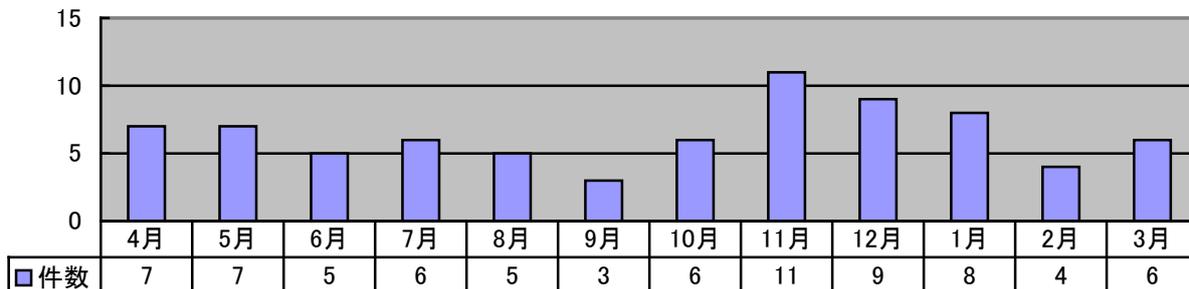
対象者	頻度	内容
小学生	各児童週2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上の児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成する。 学校の授業についていけない子どもについては、ワークを購入した。 学校の宿題後に行き、行った勉強を母親に渡し、見てもらう。参加できなかった時は、家に持って帰って母親と一緒に解いて、持って来てもらい、職員が採点し返す。
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。
中学生	週1回	英語・数学。個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成する。 中3には受験前、ボランティアを依頼する。
	テスト前は2日間連続	テスト範囲。
	夏・冬・春の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

12. 《リスクマネジメント報告》

① 23年度ヒヤリハット報告件数・・・77件（学童保育は除く）

※22年度年間報告件数147件（学童分も含む）

ヒヤリ報告

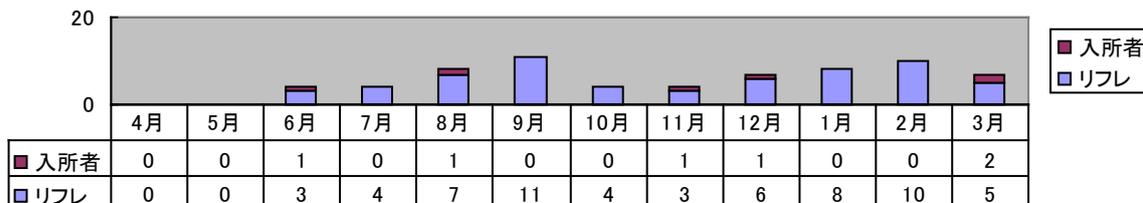


②ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート）

→11、12月は新人による報告が多い。

- ・リフレ・・・61件
- ・入所者・・・6件

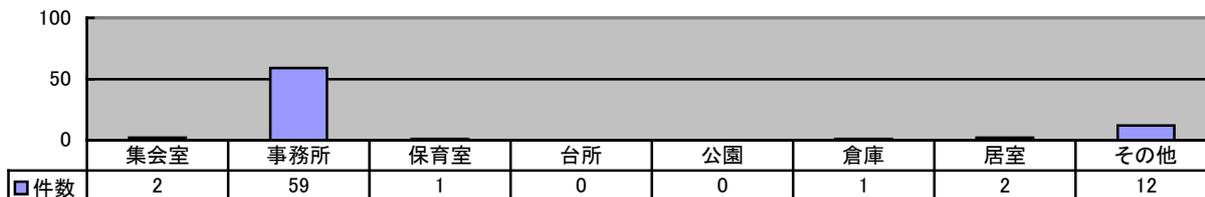
ケガ報告



→場所別では公園と集会室でのケガが一番、多かった。また、発生した状況別では、遊びの際に走っていてこけたり等、防ぐ事の難しいケースが多かったが、職員一同、その事を認識し、ケガが起こった際は、すぐに対応出来る様、日頃から努めていきたい。

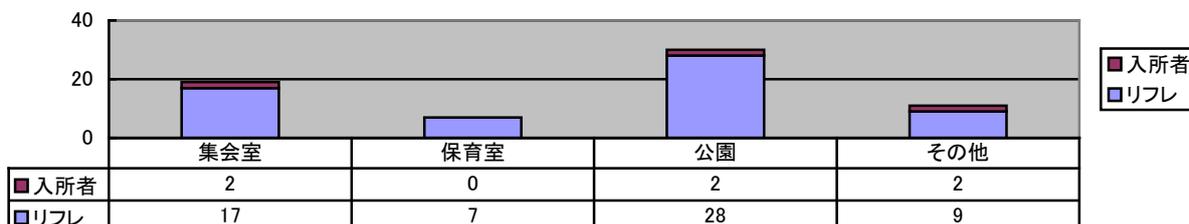
③発生場所別件数

ヒヤリ報告



→職員による事務仕事でのミス（4. 参照）が多い為、事務所で件数が多い。

ケガ報告(場所)

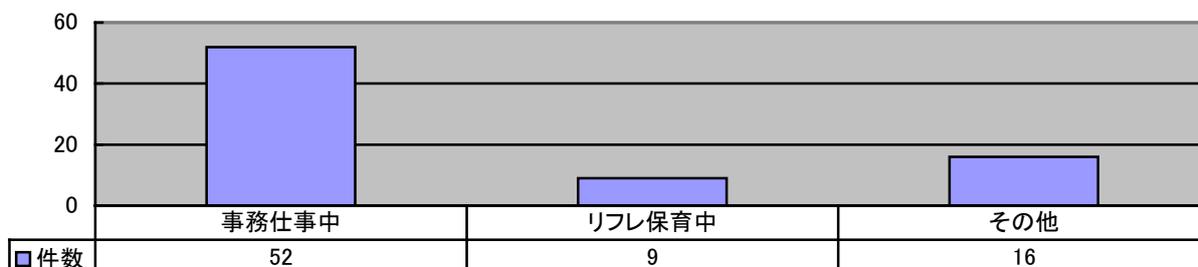


→リフレは体を動かした際にケガをする事が多いので、公園での件数が多い。入所者のその他の2件はこけた、擦りむいた、と職員に話しにきて、母親が不在だった為、事務所で処置をした件数。

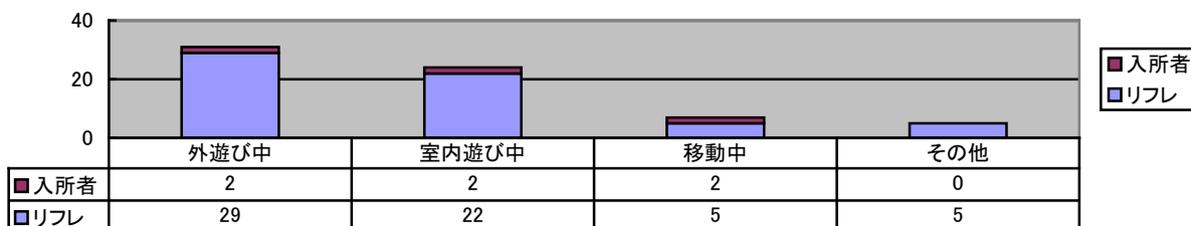
④発生状況別件数

→事務仕事中の報告が多い。その他に含まれるものは、買出し中や利用者との関わり中に起きている状況である。事務仕事中に多い、ということは、落ち着いて処理や確認を行えば、防げるものが多い。

ヒヤリ報告



ケガ報告(状況)

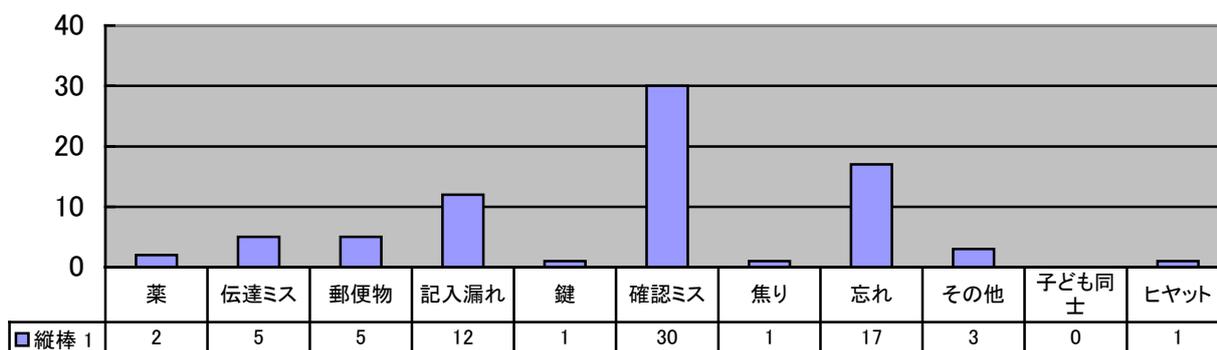


→リフレ、入所者共に遊び中の不慮のケガが多い。

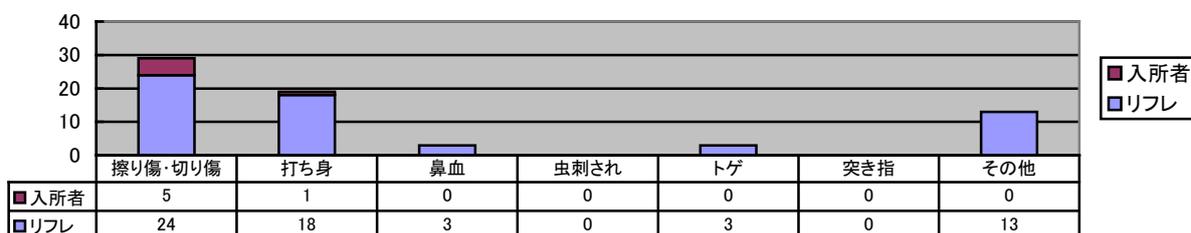
⑤発生内容別件数

→忘れ、確認ミスが多い。落ち着いて確認をすれば、防ぐことができるミスが多い。

ヒヤリ報告



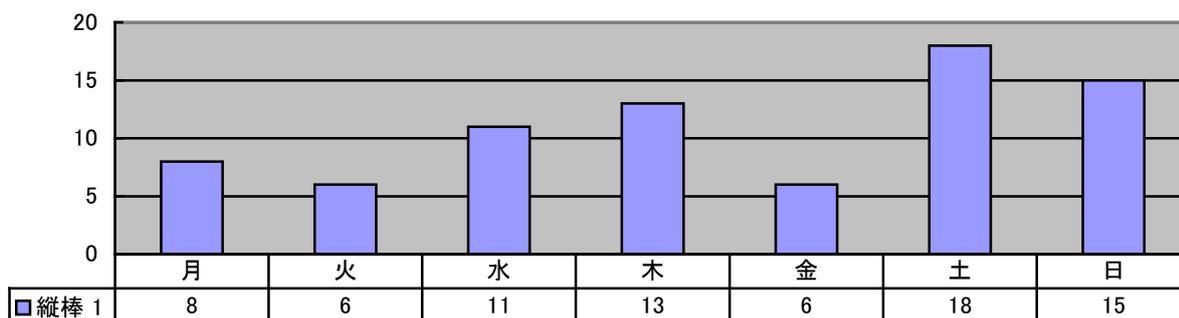
ケガ報告(内容)



→発生状況を問わず、擦り傷や打ち身が一番多かった。

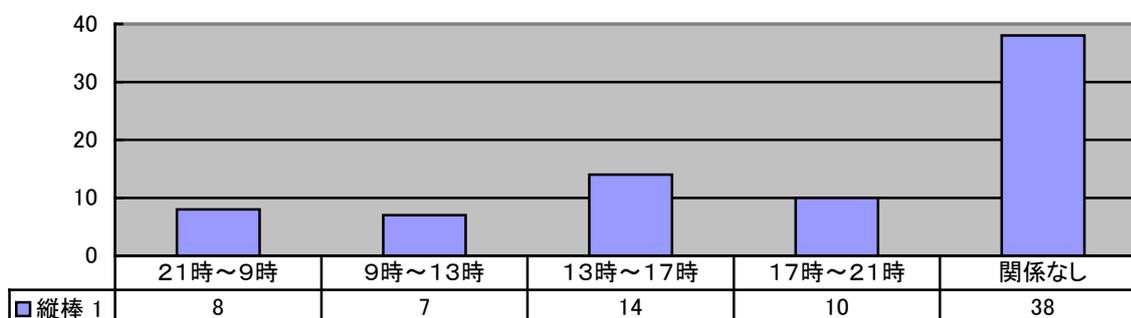
⑥曜日別件数

→特に何曜日に多い、ということはないが、週末になると件数が多い。



⑦時間帯別件数

→入所者との関わりが多くなる13～21時にかけて件数が多い。



⑧まとめ

→薬の管理数が少なくなり、薬による件数が減ったのもあるが、全体的に件数が減少した。しかし、それは小さなリスクを見落としている可能性もあるので、今一度リスクマネジメントの意義を考え、来年度は報告件数が増える様努めていきたい。また、今年度も職員による確認ミスが多いので、確認とはどういう事なのか、また一つの確認ミスがどのような結果を招くのかという事を職員一人ひとりが考え、リスクの軽減に努めていきたい。

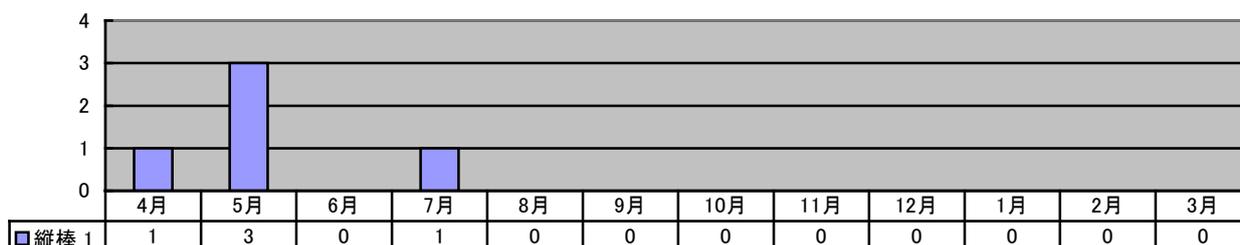
13. << 苦情・相談結果報告 >>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

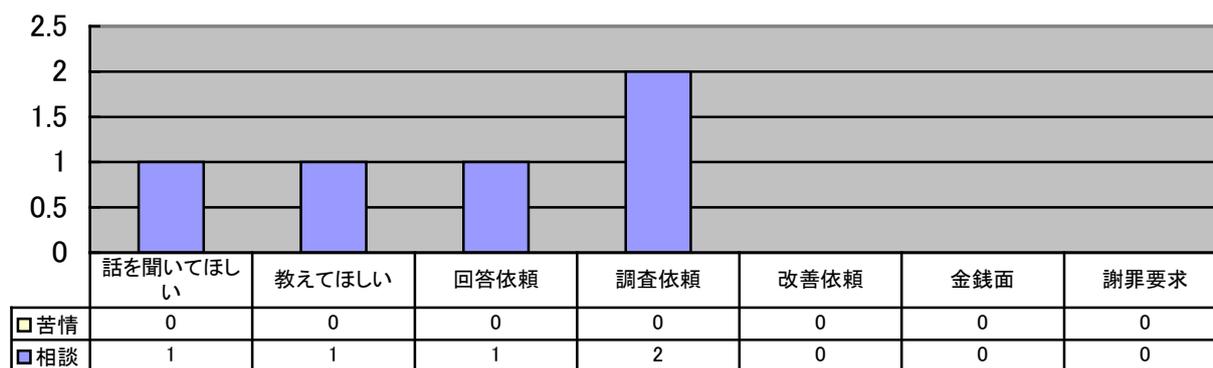
件数…苦情0件、相談5件

○報告件数

23年度				22年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	5件	0件	5件		17件	5件	12件



要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

施設の児童が伝染病になったら教えてほしい ・隣の入所者から壁を叩かれる ・(母より)事務所で宿題させてほしい ・相談したい時に相談できる環境を作してほしい

○まとめ

苦情件数は0件だったが、相談による報告は5件あり、職員の対応等、改善依頼に近いものが多かった。職員一同、会議を通し改善していき、よりよいサービスが提供出来る様に努めていきたい。

14. 《総括》

23年度は、金銭面での支援方法について色々考える1年であった。子どもが進学する際や自立する際に必ず金銭が必要となるが、いざその時期を迎えると、全くお金がないというケースも2件あり、高校進学費用については貸し出しを行った。今後の、ケースワークでは、貯蓄の重要性を伝え、金銭の管理等、個別にあった支援方法が必要ではないかと思う。(現時点で2件、将来の為の資金として、母の承諾を得て事務所でお金を管理している。)

また、施設慣れし、自立から遠のいているケースも見られた。いき過ぎた支援により、自立の妨げにならない様、本来の母子生活支援施設としての役割を職員一同で、入所者が自立できるよう考え、個別にあった支援を進めていける様、努めていきたい。